

# JCAAW

Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.

## ワシントン日本商工会会報

10月号

2024年 No. 566

### 目次

- ワシントンDCで働く女性の会(J-WIP)特集・・・2
- 研修会報告「Simplicity and Balance」をテーマにした座談会を開催  
講演者: 2021年ノーベル物理学賞受賞者  
眞鍋 淑郎博士・・・・・・・・・・・・・・5
- 研修会報告「米国プライバシー権法」草案と企業の対応  
講演者: S&K Brussels法律事務所  
杉本 武重代表・・・・・・・・・・・・・・6
- 第13回商工会ソフトボール大会開催報告・・・7
- 新会員紹介コーナー・・・・・・・・・・・・・・9
- 広告募集のご案内・・・・・・・・・・・・・・11
- 米国での生活と移民法  
第82回「永住権の維持と喪失について」  
米国移民法弁護士 石田 砂織・・・・・・・・12
- ワシントン月報(第205回)「30年闘争記 ～ローファームの分裂～ ～我が人生～」  
米国特許弁護士 服部 健一・・・・・・・・15
- 今月の書評「地方の白人の怒り」  
ポトマック・アソシエーツ 池原 麻里子・・・・20
- English Rescue by Jennifer  
「Language and Culture」・・・・・・・・・・・・22
- 編集後記・・・・・・・・・・・・・・25

JCAAW Copyright © 2024 All Rights Reserved.  
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

## 今月の特集

### 「ワシントンDCで働く女性の会(J-WIP)特集」

J-WIPは、ワシントン地区で働く日本女性へのキャリア育成支援を目的に2016年より活動しております。今後も引き続き、セミナーやワークショップなどを開催し、ワシントンで働く多くの女性をサポートしていければ幸いです。P.2～



### 「第13回商工会ソフトボール大会開催報告」

今年はお天気にも恵まれ、大変多くの皆様にご参加いただき、恒例の本大会を開催することができました。ご報告いたします。P.7～



### 「新会員紹介コーナー」

今月は新たに会員となりました、企業1社をご紹介します。P.9



## 連載

### 「English Rescue by Jennifer: Language and Culture」

今年のテーマは「American Sports」。アメリカスポーツの歴史などをジェニファー先生に掘り下げていただいています。今月は、「NASCAR」です。モータースポーツの人気と魅力をご紹介します。P.22～

## ワシントンDCで働く女性の会 (J-WIP) 特集

「ワシントンDCで働く女性の会 (Japanese Women in the Professions in Washington DC)、略称 J-WIP」は、ワシントン地区で働く日本人女性へのキャリア育成活動を行い、メンバーの成長をはかること、また、J-WIPメンバーのキャリア育成・成長を通じて、企業活動や個人の事業活動へ貢献すること、などを目的に掲げ、2016年に活動を開始しました。以来、今までの8年間、ビジネスに必要なコーチングやワークショップ、またネットワーキングイベントなど、数多くの活動が脈々と続けられてきました。今月号では、J-WIPの直近の活動二件を紹介させていただきます。

### J-WIP Vol. 26

2024年8月27日、ワシントンDCで働く女性を応援するJ-WIPによる第26回目のスピーカーイベントを開催いたしました。

講師はブルッキングス研究所東アジア政策研究センター所長・外交政策上級フェロー・フィリップ・ナイト日本研究チェアを務めるミレヤ・ソリス博士です。夏休みムードが続き、通日も静けさを感じるワシントンDCでしたが、35名の参加者が会場に詰めかけました。

ソリス博士は、2018年に大平正芳記念賞を受賞した『貿易国家のジレンマ: 進化するアジア太平洋秩序における日本とアメリカ』(ブルッキングス出版、2017年)をはじめ、日本に関する複数の書籍を執筆されています。近著『ネットワークパワー日本の台頭: 『失われた30年』論を超えて』(日本経済新聞出版)では、日本が「インド太平洋」構想のリード等を通して国際的に重大な役割を担う存在として地位を高めるに至った理由などを論じられています。

ソリス博士は、日本の対外経済政策専門家・国際経済学者としてワシントンの政策コミュニティーでも有名な方ですが、今回はメキシコで生まれ育った同博士が日本に興味を持ち、学者としてキャリアを築かれた経緯など、いわゆるパーソナル・ジャーニーを語っていただきました。

ソリス博士と日本との出会いは、メキシコの日本語学校入学がきっかけでした。石油産出国として栄えていた1970年代のメキシコには日本企業が多く進出し、それに伴い日本語学校が設立されたそうです。1980年春、大平総理大臣がメキシコを訪問。当時14歳の博士が日本語学校に訪れた大平首相を日本語スピーチで歓迎する機会を得、その体験が博士のキャリアに大きな影響を与えることとなりました。

ソリス博士は、メキシコの名門大学エル・コレヒオ・デ・メキシコへ進学された後、ハーバード大学へフルブライト奨学生として留学。卒業後はアメリカン大学で教鞭を執られた後、ブルッキングス研究所に移籍し、政策研究の道へ進まれました。キャリアを築き上げる中で2人のお子さんを育てられた博士ですが、メキシコで確立している育休制度が、アメリカでは雇用主や交渉次第で内容が変わることに戸惑い、育児とキャリア形成の間でご苦労されたとのことでした。





ソリス博士は、日本の国際的な立場や日米関係の変遷に触れ、自分のキャリアや研究に与えた影響も語られました。また近著で日本が近年、「ネットワークパワー」を駆使し、国際社会でリーダーシップを発揮、アジア太平洋地域の安定に貢献している点にも触れ、日本の「ネットワークパワー」の持続性について会場の参加者と活発な議論を交わしました。当日の議論は、米国大統領選挙、日本の自民党総裁選、世界の女性リーダーに及び、日本研究者のパイプラインなどについても会場の参加者と意見が交わされました。

今回のイベントは、ソリス博士の日本との出会い等を学ぶことで、改めて日米の「人と人のつながり」の重要性を認識する機会にもなりました。

(注)当イベントは原則オフレコでしたが、公表情報を基にソリス博士の承認を得た情報を盛り込んでいます。



2024年10月1日、ワシントンDCで働く女性を応援するJ-WIPによる第27回目のスピーカーイベントを開催いたしました。

当日は、アジア・ソサエティ政策研究所(ASPI)副所長兼アジア・ソサエティ・ワシントンD.C.オフィスマネージングディレクターを務めるウェンディ・カトラー氏と、ファイザー社でグローバル・イノベーション/貿易政策/国際政策関係担当バイスプレジデントを務めるエリッサ・アルベン氏が、講師として登壇されました。

あいにく雨が降りしきる天気でしたが、会場には男女問わず、30名の商工会会員・非会員が集まり、「Art of Negotiations (交渉術)」について活発な意見交換をしました。

カトラー氏は、約30年間にわたり米国通商代表部(USTR)で、米韓自由貿易協定、環太平洋パートナーシップ協定(TPP)、米中交渉、WTO金融サービス交渉など、さまざまな通商交渉に従事し、USTRを退職する直前には米国通商代表部代表補を務められました。日米経済協議には、1980年代末の日米構造協議(SII)から携わり、日本政府、日本企業には「タフ・ネゴシエーター」として長年知られた著名な方です。

アルベン氏も、米国通商代表部次官補(執行・監視担当)/副法律顧問として、WTO紛争案件や米国の自由貿易協定交渉等を担当し、米韓自由貿易協定等では法律顧問としてカトラー氏と二人三脚で交渉に携わりました。



左:エリッサ・アルベン氏 右:ウェンディ・カトラー氏

また米連邦議会上院の財務委員会で通商担当法律顧問を務め、米国の国内承認プロセスに欠かせない大統領貿易促進権限法(TPA)の作成などに関わりました。

交渉のプロであるお二人には、オフレコを条件に実際にかかわった様々な交渉の舞台裏などを織り交ぜ、「交渉術」の醍醐味を語っていただきました。

特に通商交渉は、国内外のマルチステークホルダー・エンゲージメントが不可欠です。日々のビジネスにも欠かせないこうしたエンゲージメントを、複雑極まる交渉の中で、どのように実行されたのか、その秘訣や、性別や文化、年代の違いが交渉の中でどのように影響したか等について、具体的にお話いただきました。



お二人には、そもそも通商交渉に携わるきっかけや、ワーキングマザーながら、夜中の電話会議や出張が多い通商交渉にどのように対応されたのかといったプライベートなお話も披露していただきました。またお二人とも次世代の交渉官育成に熱心で、特にカトラー氏は、ASPIプログラム「将来の女性通商交渉リーダー」を立ち上げ、日本を含むアジア地域の女性交渉官育成にも注力されています。

今回のイベントは、強面とみられがちな米国通商交渉のプロ中のプロの方々の人となりを知る機会にもなりました。

(注)当イベントは原則オフレコでしたが、公表情報を基に講師の承認を得た情報を盛り込んでいます。

## 研修会報告

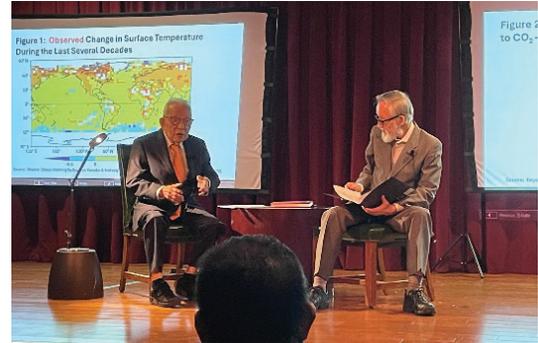
### 「Simplicity and Balance」をテーマにした座談会を開催

講演者：2021年ノーベル物理学賞受賞者 眞鍋淑郎博士

研修担当理事：須内 康史／上坪 雄之

2024年5月17日(金)、ワシントン日本商工会は日本大使館広報文化センター、ワシントン日本語継承センターと共にノーベル物理学賞を受賞した眞鍋淑郎先生をお招きし、先生の座右の銘である「Simplicity and Balance」をテーマとした座談会を開催致しました。

眞鍋淑郎先生は1931年に愛媛県でお生まれになり、1953年に東京大学理学部を卒業、1958年には同大学で理学博士を取得後に渡米し、アメリカ国立気象局で勤務されました。1968年にはプリンストン大学客員教授を兼任、2005年にはプリンストン大学上級研究員となりました。その間、二酸化炭素などの温室効果ガスが地球温暖化に影響を与える点にいち早く着目し、大気と海洋の循環を組み合わせた気候変動モデルを開発、そのご功績により2021年にノーベル物理学賞を受賞されました。



座談会では、眞鍋先生はご自身の気候変動モデルを用いて地球温暖化の仕組みと変遷をご説明になり、「地球の平均気温は21世紀中に更に2℃上昇すると予測されており、陸地は海洋よりも、また北極は熱帯よりも大きく温暖化する」との見通しを示されました。また、観測によれば、洪水と干ばつの両方の頻度が増加しており、「温室効果ガス排出量の劇的な削減が達成されない限り、地球温暖化は今世紀の残り、そして今後何世紀にもわたって、地球の生態系と人間社会に多大な影響を及ぼす可能性が高い」との警鐘を鳴らされました。このような中で、地球温暖化対策で経済界が果たす役割の重要性を述べられ、また大きな期待も

示されました。質疑応答の中では若い世代に対する期待も熱く語られ、今回の座談会は参加された各人が地球温暖化の現状と対策を真剣に考える素晴らしい機会となりました。この座談会のために遠路遥々ご足労を頂いた眞鍋淑郎先生と奥様に深く感謝を申し上げますと共に、座談会の実現にご尽力頂いたご関係の皆様にも厚く御礼を申し上げます。

以上

## 研修会報告

### 「米国プライバシー権法」草案と企業の対応

#### Overview of the draft American Privacy Rights Act (APRA) and How Companies should Respond to it

講演者: S&K Brussels法律事務所 杉本武重代表

研修担当理事: 須内 康史 / 上坪 雄之

2024年6月6日(木)、ワシントン日本商工会は、S&K Brussels法律事務所の杉本武重代表をお招きして、「『米国プライバシー権法』草案と企業の対応」をテーマに、オンラインと対面のハイブリッド形式の研修会を開催しました。

杉本代表は、弁護士として2013年から主にベルギーを拠点に活動され、2019年から東京、ブリュッセル、ニューヨークに事務所を置く S&K Brussels 法律事務所の代表を務められ、米国・EU・インド・日本のデータ保護・プライバシー法・AI規制などをご専門に活躍されています。



今回の研修会では、今年4月に発表された「米国プライバシー権法」の草案の動向について紹介いただき、同草案の全体像や適用対象、執行の体制、他の法令との関係等、草案の内容について説明いただきました。

また、今後の米国におけるプライバシー法整備に向けた企業のとるべきコンプライアンス対応について、データマッピング、社内体制・規程の整備、コンプライアンス措置の実行等、実務的な観点から詳しく解説いただきました。



講演後に行われた質疑応答でも活発な意見交換がなされ、米国におけるプライバシー法の動向とその対応についての理解を深めたいへん貴重な機会となりました。

今回の研修会のテーマが商工会会員の方々にとってタイムリーで関心の高いものであったことを実感し、有意義な研修会が開催できたことを大変喜ばしく感じております。今回の研修の実現にご協力いただきました講師

及び関係各位の皆様、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

以上

## 第13回商工会ソフトボール大会開催報告

企画理事



9月22日(日)、恒例の商工会ソフトボール大会をGaithersburg Morris Parkにて開催しました。午前は曇り空でしたが、お昼頃からは太陽も顔を出し、心地よい気温の中、総勢約70名ものプレーヤーに観客も合わせると100名を超えるほどの大イベントとなりました。ご参加いただいた各チームの皆さま、運営のお手伝いいただいた皆さまには心より感謝申し上げます。以下、当日の模様をご報告いたします。

昨年の大会は雨により途中でキャンセルとなってしまったため、実に2年ぶりに大会を完遂することができました。今回の参加は全5チーム。各チームとも、性別年齢出身問わずバラエティに富んだメンバーで構成されており、スポーツの秋、ソフトボールを通じて交流を楽しんでいただけたようです。また、会場となったGaithersburg Morris Parkには、天然芝のゆったりとしたソフトボールグラウンドが2面も配され、自然の中でボールを追いかけていると、童心に帰り、心身ともにリフレッシュできた方も多かったのではないのでしょうか。

今大会は、参加が5チームであったことから、全てのチームでの総当たり戦により順位を決定する方式を採用しました。近年の大会では、各チーム、予選ラウンド2試合と決勝ラウンド1試合の計3試合を1日で戦う方式でしたが、今大会は各チーム1日4試合と、1試合増え、筆者も含めたおじさん世代にとって、大会終盤は体力が持たなくなるなど、普段の運動不足を痛感できるほど充実した内容となりました。

プレーヤーにとっては中身の濃い大会でしたが、昼休みには応援に来られたご家族とレジャーシートを広げ、ピクニック気分でランチを摂るなど、行楽シーズンらしい長閑な光景も見られ、例年同様、多くの方に楽しんでいただけたイベントだったかと思います。

試合結果は以下のとおりです。大接戦となった試合もたくさんあり、最終盤まで優勝チームが分からない盛り上がる大会となりました。雨天中止となった前回は挟んで2大会連覇を達成されたSakura Sluggersの皆さま、おめでとうございます！

【対戦成績表】

順位	チーム	Sluggers	Zero	Patriots	Senators	Kangaroos	勝数	負数
1	Sakura Sluggers		○ 3-1	○ 13-6	○ 3-2	○ 17-3	4	0
2	Club Zero	× 1-3		○ 13-0	○ 12-6	○ 5-1	3	1
3	Patriots	× 6-13	× 0-13		○ 9-3	○ 14-2	2	2
4	JCAW Senators	× 2-3	× 6-12	× 3-9		○ 12-3	1	3
5	MC Kangaroos	× 3-17	× 1-5	× 2-14	× 3-12		0	4



主催者としては、2年ぶりにこのような大きなイベントを最後まで実施することができ、喜びや達成感もひとしおです。会場に溢れた笑い声や歓声や声援を耳にし、そして何より経験やスキルに関係なく、屋外でソフトボールを楽しむ参加者の皆様の姿に、スポーツを通じた交流イベントの価値を再認識したところです。

今大会を大きな怪我や事故なく成功裡に終えることができたのも、各チーム代表者様、審判を務めていただいた方、その他スタッフ・関係者の皆様のご理解とご協力のおかげでございます。この場をお借りして、改めて厚く御礼申し上げます。

次回の大会でも、皆さまの笑顔と真剣勝負が見られることを楽しみにしております。





## 新会員紹介コーナー

新規会員の自己紹介ページです。今月はObservatory Groupから紹介文をいただきました。

なお、既存会員による自己紹介機会もございますので、お気軽に事務局 ([office@jcaaw.org](mailto:office@jcaaw.org))までご連絡下さい。

**企業名:** Observatory Group

**責任者:** Katy LeDoyen



1920 L Street, N.W., Suite 310, Washington, DC 20036



212-542-9296



[www.observatorygroup.com](http://www.observatorygroup.com)

# of Employees

: 20

Other Sales Offices

: Tokyo, London, Paris, Beijing, New York

Position Details

: Observatory Group is a global macroeconomic and geopolitical consultancy, focused on policy analysis, closely monitoring the global interest rate environment, and analyzing major macroeconomic themes. We combine our policy analysis with deep understanding of the global geopolitical climate to guide investment and business decision-making. In addition to our ongoing coverage of the US, Eurozone, Japanese, and Chinese economies and political outlook, Observatory Group hosts a series of meetings and conference calls with G7 and emerging market policy makers and political subject matter experts. These events facilitate direct dialogue between Observatory Group's clients and policy makers.

Motivation for Joining

: I joined because I would like to strengthen my networking with Japanese companies and build relationships by participating in the various business, social and cultural activities that support the JCAW mission.



PASONA

## Human Resource Solutions

「人事」から始まる  
「経営戦略」

詳しくはこちらから



米国日本通運株式会社は2022年1月より、社名をNXアメリカ株式会社へ変更致しました。



帰国の際の引越はNXアメリカにお任せください

お問い合わせ、お申込みはNXアメリカ ワシントン営業所まで

TEL: (703)-661-8326 (日本語ダイヤル)  
URL: <http://www.nittsu.com/hikkoshi>

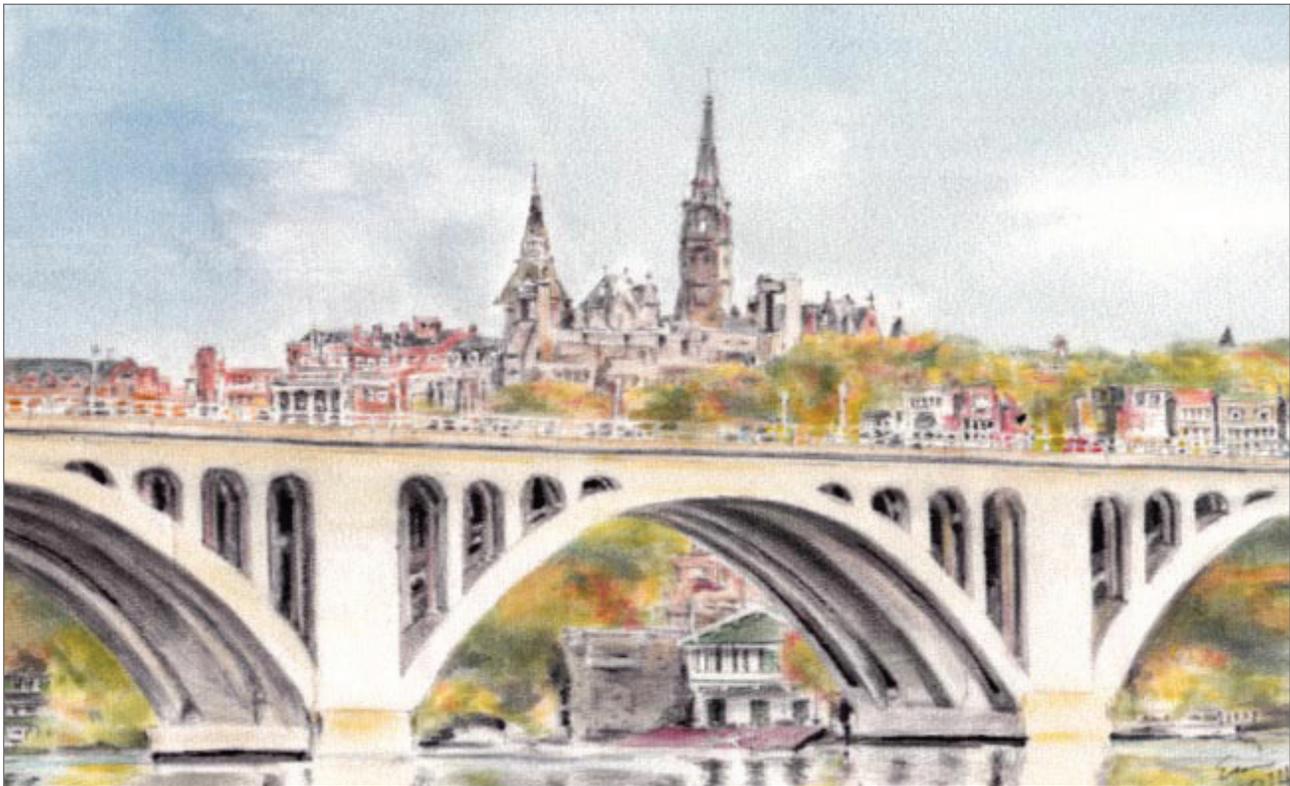


Illustration by Emi Kikuchi

## 広告募集のご案内

### JCAW会報に広告を掲載しませんか？



JCAWでは、広告掲載の申し込みを承っております。JCAWは500名以上の会員からなり、ワシントン地域の日本人社会に広く浸透しています。

是非、貴社の広告や宣伝にJCAW会報をご利用下さい。

会報の広告にリンクを設定する事により、クリック1回で、貴社のウェブサイトやEメールアドレスにアクセスすることができます。年間契約でさらにお得になります。

JCAWウェブサイトのトップページには、バナー掲載など、各種オプションを取り揃えております。

詳しくは、JCAW事務局までお問い合わせ下さい。



広告のイメージ図



ウェブサイトのバナーのイメージ図

#### 料金体系（2024年1月からのレート）

広告掲載先	サイズ	商工会会員		非会員	
		月料金	年料金	月料金	年料金
会報※1	1/4ページ	\$55	\$495	\$80	\$720
	1/2ページ	\$110	\$990	\$135	\$1,220
	1ページ	\$220	\$1,980	\$265	\$2,385
ウェブサイト※2	200px X 33px	なし	\$330	なし	\$825

※1 会報広告 原稿制作費は当広告掲載料金に含まれません。原稿は広告主様にて手配願います。1年（1月～12月）契約で1回割り引となります。（会報は年10回発行）

※2 ウェブサイトのバナーは年間契約（1月～12月）のみとさせていただきます。（バナー作成を依頼する場合は、別途\$50～対応いたします。お気軽にご相談ください。）

#### お問い合わせ先

Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.  
1819 L Street N.W., Suite 410, Washington, D.C. 20036  
TEL: 202-463-3947 FAX: 202-463-3948  
Email: office@jcaaw.org URL: www.jcaaw.org

## 米国での生活と移民法

### 第82回「国務省による移民多様化(Diversity Immigrant Visa )プログラム<sup>1</sup>」

米国移民法弁護士 石田 砂織

永住権の申請には、ほとんどの場合、アメリカの雇用者やアメリカ国籍又は永住権を持つ家族(配偶者、21歳以上の子供、親など)によるスポンサーが必要です。ところが、一般に永住権の抽選と知られている国務省多様化プログラム(Diversity Immigrant Visa (DV) Program) は、スポンサーに頼らず、自身で永住権の申請をする限られた選択肢の一つです。今年も10月2日より抽選に応募することが可能となりました。そこで今回は、抽選による永住権についてお話いたします。

#### 応募資格:

国務省による移民多様化プログラム(DVプログラム) による永住権は毎予算年5万件に限られており、さらに国ごとに上限が決まっております。日本で生まれた方は国籍を問わず毎年DVプログラムに参加することができます。また、抽選に当選した場合、当選者本人と家族(配偶者と21歳未満の子供)ともに永住権の取得が可能となります。

応募にあたっては、高校卒業以上の学歴、もしくは、過去5年以内に、最低2年間の研修や実務経験を要する職業に2年以上従事していることが条件となります。学歴の条件は、正規の学校教育を修了した場合のみ満たされます。通信教育や高卒認定証は該当しません。

応募者の職業が条件を満たしているかどうかは、労働省の [O\\*Net Online](#) にある情報を用いています。職業経験をもとにDVプログラムの要件を満たすためには、過去5年以内に2年以上、O\*Net Online 上で、Specific Vocational Preparation (SVP) 7.0 以上と規定される職業に従事していたことを証明しなければなりません。O\*NET Online 上、[Job Zone 4](#) 或いは[Job Zone 5](#)に値する職業であれば条件を満たしています。

学歴や職歴の証明書類は、当選後、アメリカ国外での移民ビザ申請の際に、またはアメリカ国内で申請する場合は移民局に、永住権の申請書類と一緒に提出する必要があります。学歴や職歴の条件を満たさない場合、抽選当選者と帯同家族全員の永住権、または移民ビザ申請が却下されることとなります。

<sup>1</sup> 本文に書かれている情報は、執筆時点のもので、その後の法改正 などは反映しておりません。また、本文の内容は具体的な個別事案に関して法的なアドバイスをするものではありません。

### 参加方法:

DVプログラムに参加するには[国務省のウェブサイト](https://dvprogram.state.gov/)にある応募用紙に直接記入、提出します。( <https://dvprogram.state.gov/>このサイトはDVプログラム開始間際にアップデートされます。) 次のDVプログラムは予算年2026年度(2025年10月1日から2026年9月30日)に発行される永住権で、応募期間は今年の10月2日から11月5日正午(東海岸時間帯)までです。近年、締め切りの1週間前に抽選応募数が増加する傾向にあり、国務省のウェブサイトへのアクセスが集中することから、ウェブサイトの読み込みの遅れやクラッシュなどの問題が生じています。できるだけ早めに応募を済ませましょう。

抽選当選者は来年の5月頃に発表されます。当選したかどうかは、国務省のウェブサイトで、応募確認番号を入力し、調べる必要があります。国務省から直接抽選当選等の連絡は届きません。

### 抽選当選後の手続き:

当選者の数はDVプログラムの年間枠である5万5千人を大きく上回るので、抽選に当選したからといって必ずしも永住権が獲得できるわけではありません。ちなみに予算年2025年度(2024年10月1日から2025年9月30日)のDVプログラムの応募者の総数は 19,927,656、当選者の総数は 131,060、その内日本人の当選者は149人でした。<sup>2</sup>

また、すべての当選者が同時に永住権の申請をできるわけではありません。国務省、また移民局では予算年の開始となる10月1日より、申請書類の提出が可能となります。もしすでに合法的にアメリカに滞在しているのであれば、国務省ではなく移民局に申請書類を提出し、国外に出ずに永住権の取得が可能です。

ただし、当選者全員が同時に、来年の10月より永住権申請書類を提出できるわけではありません。当選番号の順番により、いつ永住権申請書類が提出できるかが決まっています。当選後、永住権申請書類を提出することが可能かどうかは、毎月発行される国務省の[Visa Bulletin](#)で当選番号が含まれているかを確認します。

例えば、予算年2025年度(2024年10月1日から2025年9月30日)のDVプログラム当選者の永住権申請提出が開始となる2024年10月に申請書類の提出できるのは、どの当選者でしょうか?これを確認するには、その前の月、[2024年度9月のVisa Bulletin](#)を見る必要があります。すると、以下のような表がVisa Bulletinに発表されています。アジアの欄に3000と書かれています。これは、当選番号が3000番以内であれば、永住権申請の書類を10月1日から提出することが可能である、という意味です。

2 <https://travel.state.gov/content/travel/en/legal/visa-law0/visa-bulletin/2024/visa-bulletin-for-september-2024.html>

### **C. THE DIVERSITY IMMIGRANT (DV) CATEGORY RANK CUT-OFFS WHICH WILL APPLY IN OCTOBER**

For October, immigrant numbers in the DV category are available to qualified DV-2025 applicants chargeable to all regions/eligible countries as follows. When an allocation cut-off number is shown, visas are available only for applicants with DV regional lottery rank numbers BELOW the specified allocation cut-off number:

Region	All DV Chargeability Areas Except Those Listed Separately	
AFRICA	15,000	Except: Algeria 6,500 Egypt 8,250 Morocco 8,250
ASIA	3,000	Except: Iran 2,950 Nepal 2,950
EUROPE	6,000	Except: Russia 5,950 Uzbekistan 4,900
NORTH AMERICA (BAHAMAS)	2	
OCEANIA	500	
SOUTH AMERICA, and the CARIBBEAN	825	

#### 注意点:

永住権発行が5万件に達した場合、また予算年が終わる9月30日までに永住権が発行されない場合は抽選に当選しても、永住権は取得できません。また、永住権の申請手続きには最低でも数ヶ月かかります。近年は新型コロナウイルスの影響で、大使館、領事館の手続きが一時中止となったこと、移民局での手続きの大幅な遅れなどの影響で、5万件全ての永住権が発行できないまま予算年が終ることもありました。従って、当選番号が解禁された後、永住権申請書類をできるだけ早く提出する必要があるでしょう。

© 2024 Ishida Immigration Law PLLC. All Rights Reserved.



#### 石田砂織プロフィール:

アメリカ移民法専門家として約20年の経験を持つ弁護士。バーズ&ソーンバーグ法律事務所等を経て独立し、[Ishida Immigration Law PLLC](#)を設立。アメリカでビジネスを営む日系企業を含む様々な法人、個人のクライアントに幅広く移民法のサービスを提供している。ニューヨーク州、ワシントンD.C.にて弁護士資格を持つ。米国移民法弁護士協会(AILA)所属。お問い合わせ、ご相談をご希望の方は[contact@ishidaimmigration.com](mailto:contact@ishidaimmigration.com)か(202) 656-8778までご連絡下さい。



INTERNATIONAL MOVING SERVICE 

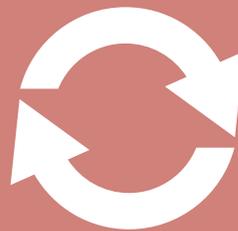
<p>お荷物の多い方!時間のない方! 面倒なお引越は全てまかせて ら〜くら!</p>  <p><b>安心</b></p> <p>引越 <b>海外パック</b> 5&lt;5&lt;5&lt;</p>	<p>箱に入らない家具や 自転車なども送りたい、だけど安く 済ませたい!そんな方へ</p>  <p><b>丁度いい</b></p> <p><b>ベーシックプラン</b></p>
<p>定形の箱に入るお荷物だけ ご自身で梱包をして節約! すぐに必要ではない お荷物は船便で割安に</p>  <p><b>節約</b></p> <p><b>単身プランSea</b></p>	<p>定形の箱に入るお荷物だけ ご自身で梱包をされる方 必要な荷物を 最短の所要日数でお届け</p>  <p><b>早い</b></p> <p><b>単身プランAir</b></p>

\各サービスの詳細はウェブサイトにてご覧いただけます/  
[www.yamatoamerica.com/cs/](http://www.yamatoamerica.com/cs/) 

フリーダイヤル 5 4 5 6 5 8  
**1-866-5-KIKOKU**  
日本以外の世界中へのお引越・米国内のお引越も!

米国ヤマト運輸 ワシントンDC支店  
22930 Quicksilver Drive, Unit 115  
Dulles VA, 20166  
Phone: (703) 661-3501  
Email: wasoperat@yamatoamerica.com

## 登録情報の ご確認、更新をお忘れなく



法人会員、個人会員ともにご登録情報（会員名、電話番号、メールアドレスなど）にご変更がある場合は、お気軽に事務局までメール（office@jcaaw.org）にてご連絡ください。

会報やその他の情報がタイムリーにお手元に届きますよう、登録情報の更新にご協力ください！

会報やその他の情報がタイムリーにお手元に届きますよう、登録情報の更新にご協力ください！

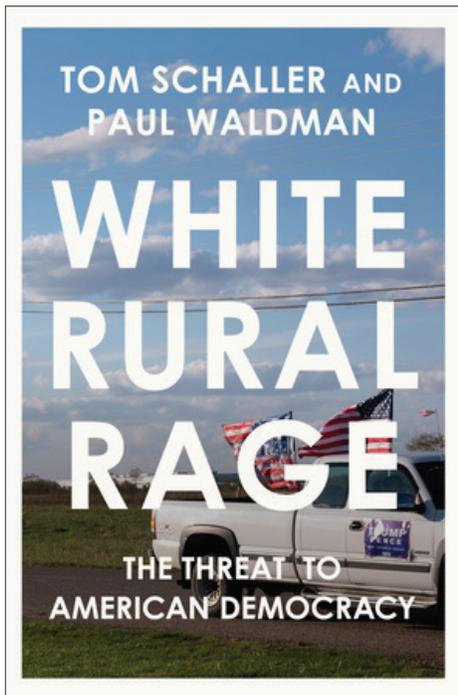


Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.

## 今月の書評

日々、先導されている彼らの怒りは  
今や米国民民主主義の脅威となっている  
「地方の白人の怒り」  
トム・シェイラー&ポール・ウォルドマン

ポトマック・アソシエーツ 池原 麻里子



「地方の白人の怒り」  
トム・シェイラー&ポール・ウォルドマン  
(ランダムハウス)

本書の副題は「米国民民主主義への脅威」。著者トム・シェイラーはメリーランド大が政治学学者、ポール・ウォルドマンはワシントン・ポスト等のコラムニストだ。

著者いわく、地方の白人有権者は米国でどのグループよりも、選挙上一番有利な立場にある。過去の大統領選挙8回中7回、彼らが支持した共和党候補の獲得した票数は民主党候補より少なくとも、2回当選した。

トランプ大統領が誕生したのも、米国選挙制度上、彼らが都市部の有権者よりも有利なためだ。2010から2020年にかけて人口は、都市部81%で増加したのに対して、地方53%以上で減少したにもかかわらず、トランプ氏は2020年、最も過疎な18州の選挙人108人中、98を獲得した。

トランプ氏が最高裁判事3名を任命した最高裁では、保守派が6対3というスーパー・マジョリティーを得て、右翼の政策ヴィジョンを国民全員に押し付けている。

地方の州民にとってヘルスケアへのアクセスは不十分、インフラは高齢化し、製造業や農業の失業が増えており、彼らは国に裏切られたと感じている。これはトランプ氏や共和党政治家、保守メディアが主張するように、ハリウッド、東部エリートや移民が家族農場を経営困難に陥れ、製造業を海外に移転したり、地方の病院を閉鎖し、インフラを老朽化したわけではない。

著者らは模索する。彼らはなぜ、有利な政治力があるのに、こういう立場に追い込まれているのだろうか？そしてなぜ、民主主義の規範や伝統を放棄しつつあるのか。共和党政政治家や保守系メディアによって日々、扇動されている彼らの怒りは、今や米国の民主主義への脅威となっている。

彼らは選挙が公正に実施されたことを信じず、陰謀説にとらわれ、独裁主義を歓迎している。「私の国を愛しているが、我々の国は愛していない」といい、愛国心をひけらかすが、実際は米国の中核となっている原則を守る意思はない。保守派の政治家やメディア・ホストたちは、彼らが直面している困難な問題に取り組むのではなく、その憤怒に油を注いで、民主主義の土台を壊している。

問題の原因は、1)白人の絶望。地方の小さい都市の貧困、失業率、ホームレス数、犯罪、ビジネス閉鎖、麻薬中毒と、それに伴う怒り。2)米人口15%を占める以上の選挙制度上の有利さ。3)白人文化と価値観を崇拜。4)共和党リーダー、保守メディアによる扇動。

その結果、1)人種差別、反移民感情につながり、彼らの4割しか人種や価値観の多様化を歓迎しない。2)Qアノンや、コロナ・ワクチンの陰謀説を事実としてとらえている。特に2020年大統領選でトランプ氏が勝利したと確信。3)三権分立、投票の権利、報道の自由といった民主主義の根本を拒否。4)1月6日の米議会襲撃に代表される暴力行使を正当化。

現在、起きている中絶問題、LGBTQへの反感、特定の図書排除といった文化闘争はアイデアや思想の戦いではなく、互いの世界観を容認できない明確に分裂しているグループ間の戦いである。

今後とも共和党は落選するたびに、支持者に対して、権力が奪われ、民主主義は機能していないと吹聴し続けることだろう。それが権力維持と私腹を肥やすことにつながるからだ。彼らは問題を本当に解決することに関心はない。

著者らは、この状況から脱するためには、地方の住民とそれ以外の住民両方に明るい未来をオファーする政治が必要だと提案している。

(NEW LEADER 2024年8月号より転載)



Illustration by Emi Kikuchi

## English Rescue by Jennifer: 「Language and Culture」

ジェニファー・スワンソン

---

---

### Hot Topics – American sports: NASCAR

With the excitement of Super Bowl LVIII and the thrilling news that Shohei Ohtani signed with my hometown Dodgers, (Go Dodger Blue!) I decided to focus on popular sports in 2024. But first, a quick note: in case you are new to this JCAW column, in the past few years, I have spotlighted famous American speeches, poems, podcasts, and more. Back issues can be found on the JCAW website.

Sports play a crucial role in American culture. From January, we have focused on spectator sports, covering Football, baseball, basketball, and college basketball. From the summer we discussed sports people like to play: pickleball and lacrosse.

Now that the weather is turning colder, we can look at something off the wall: NASCAR.

**History:** NASCAR (National Association for Stock Car Auto Racing) was founded in 1948 by Bill France Sr. in Daytona Beach, Florida, to organize and standardize stock car racing. The first official race was held in 1949, launching what would become the Cup Series. NASCAR grew in popularity during the 1970s with sponsorships like the Winston Cup and stars such as Richard Petty and Dale Earnhardt. The 1979 Daytona 500, the first race broadcast live in full, further boosted its national presence. Following Earnhardt's tragic death in 2001, NASCAR introduced new safety measures. Today, it remains a leading U.S. motorsport with multiple racing series and a loyal fan base.



Motorsports hall of fame

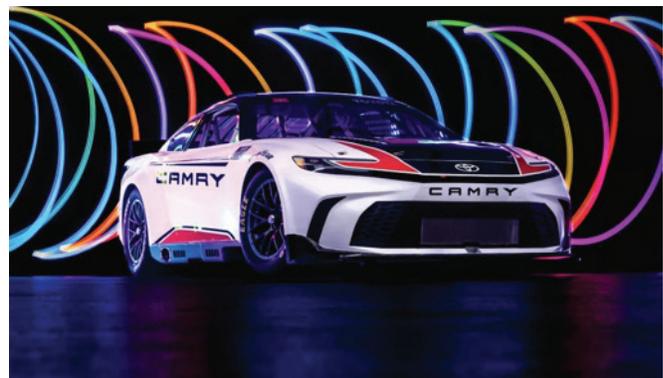
**Rules:** NASCAR rules are designed to ensure safety, fairness, and competitive racing. Races take place on oval or road courses, with drivers completing a set number of laps. Cars must meet strict specifications regarding weight, engine power, and safety features. Races are divided into stages, and drivers earn points based on their performance in each stage, with the season ending in the Cup Series Playoffs to crown the champion. During races, teams can

make pit stops for tire changes, refueling, and adjustments, but penalties apply for infractions like speeding in the pit lane. Cautions are issued for accidents or debris, leading to yellow flags that slow the race until it can safely resume.

**Why is NASCAR so popular?** NASCAR's popularity stems from its blend of high-speed action, accessibility, and cultural significance. It offers thrilling, close-quarters racing where drivers often reach speeds of over 200 mph, creating an adrenaline-pumping experience for fans. The sport's roots in American culture, especially in the southeastern U.S., contribute to its strong regional and national appeal. NASCAR has a unique connection with its fan base, providing a sense of community and accessibility by allowing fans to get closer to the action, drivers, and teams compared to other sports. Its tradition of family involvement, with multi-generational racers like the Earnhardts and Pettys, adds to the allure, as does the sport's ability to adapt, incorporating new tracks, formats, and safety measures. The season-long points system and playoffs keep fans engaged, making NASCAR not just a sport but a social and cultural event for many.

**How is NASCAR seen in popular culture?** In American society, NASCAR is seen as both a major sport and a cultural symbol, especially in the South where it has strong roots. It reflects values like tradition, community, and blue-collar culture, with races serving as social events that go beyond just the competition. NASCAR's multi-generational racers and patriotic displays make it a lifestyle for many fans. While often viewed as a "Southern" sport, efforts to diversify and modernize have helped broaden its appeal nationwide, making it an enduring part of American sports culture. In addition, NASCAR and politics intersect through the sport's strong ties to American patriotism and its largely conservative, blue-collar fan base. Politicians often use NASCAR events to connect with voters, especially in key states like North Carolina and Florida. The sport's patriotic displays, as well as controversies over diversity, Confederate symbols, and protests, reflect broader political and cultural debates in the U.S. On June 10, 2020, NASCAR banned the Confederate flag from all of its events and properties.

**Japanese company connection:** Some Japanese companies have sponsored NASCAR teams and events. The most prominent example is Toyota, which has been heavily involved in NASCAR since 2004, when it entered the Truck Series, and later expanded to the Cup Series in 2007. Toyota supports multiple teams and provides cars, engines, and other support, playing a significant role in the sport. Other Japanese companies, such as Sony, Panasonic, and Yokohama Tire, have also had sponsorships in



NASCAR at various times, either through individual teams or as event sponsors. However, their involvement is generally less extensive compared to Toyota, which remains the most significant Japanese presence in NASCAR.

- <https://www.mshf.com/hall-of-fame/inductees/dale-earnhardt.html>
- <https://www.toyota.com/racing/nascar-cup>
- <https://www.forbes.com/sites/gregengle/2023/11/14/theres-another-nascar-tradition-that-needs-to-go-away/>
- <https://www.toyota.com/racing/news/2023/11/toyota-unveils-camry-xse-race-car-for-2024-nascar-cup-series-sea>



～Jennifer Swanson プロフィール～

日本にて7年在住中に、高校英語教師の経歴を持ち、日本企業でも働いた経験を生かし、現在は米国大学講師、日米協会講師、在米日本人に英語レッスンの他、米国人に日本語も教える。日米でのさまざまな経験を基に、“頻出テーマで はじめてのTOEFLテスト 完全攻略”(高橋書店: Jennifer Swanson/四軒家 忍 (著))を出版、多方面から楽しい英語レッスンを展開しています。

[jenniferswanson.org](http://jenniferswanson.org)

## 10月号 編集後記

大統領選挙まで1か月を切りました。October Surpriseはあるか、選挙結果はいつ判明するのか、結果を巡ってまた揉めるのか、それが米国の更なる分断につながらないか、等々の疑問があり、選挙当日が過ぎても落ち着いた日々が続きそうです。

日本も石破政権誕生、総選挙と政治から目が離せませんが、来年には日米新政権同士の関係構築という大事な局面を迎えます。日本の産業界としても、米国新政権の政策の事業への影響は大きいと思われるので、首脳同士の良好な関係構築を願うとともに、できる限りの役割を果たすべきと思います。

日米財界人会議のために多くの日本企業関係者がワシントンを訪れています。こうした産業界同士の枠組みも何らかの貢献につながるものと信じています。

岡崎・岡本



---

会報に関するお問い合わせにつきましては、[JCAW事務局](#)までご連絡ください。

---